

Uoooz!!

寺口ともゆき 県政報告
2025 Spring vol.3



撮影：海風亭

海と山に囲まれた魚津の魅力といえば“食”。
飲食店が軒をつらね、多くの料理人が腕を振るう。
旬を味わいに、ぜひ来てみっしゅい!

皆様に県議会議員として送り出していただいているから、早くも2年の月日が過ぎようとしています。この間を振り返ってみますと、新型コロナウイルスがようやく落ち着きを見せ、さあこれからというときに起きた能登半島地震、さらに昨年9月の大雨災害、また猛暑による米の不作や供給不安など、激甚化する自然災害への備えはもちろん、社会経済両面において、まさに政治の手腕が問われていると感じます。

一方、県議会では、県立高校の再編や警察署の分庁舎化、富山地方鉄道を含めた公共交通ネットワークの検討といった、地域に関わる重要な課題の議論が進んでいます(中面参照)。また私自身も、地域活性化やまちづくりにより深く関わりたいという思いから、令和7・8年度は地方創生産業委員会に所属することが決まりました。

魚津そして富山県の“これから”をつくるために、今後の2年間も全力で取り組んでまいります。引き続き皆様からの応援をよろしく願います。

未来のまちを考えよう
みんなのうおーず
Uoooz!!
vol.3

お話を聞いたのは...



渡邊 純子(わたなべ じゅんこ)さん

NPO 法人ダイバーシティこどもの家 理事長。
作業療法士や特別支援教育における経験を生かして、フリースクール運営に関わる。

すべての子どもたちに学びの場を
好き、得意を生かした多様な学びを!

学校に代わる新たな学びの場として、2024年4月に魚津市内で「フリースクール」の子を開校しました。同校は「NPO法人ダイバーシティこどもの家」が運営しており、週に3回、自然体験やランチづくり、クラフト体験、販売体験、運動、動画作成など、子どもたちの認知特性を生かした多様な学びの場を提供しています。活動するなかで大切にしているのは、子どもたちの「やってみよう」「楽しい」「わくわくする」気持ち。さまざまなことに挑戦し、多様な人と関わるなかで、試行錯誤したり、自己選択したり、意思決定したり。できたという達成感とともに、自己肯定感を育てることが、社会でたくましく生きる力につながっていくと考えています。



私たちスタッフは、子どもたちが自ら問題解決を図れるように、ファシリテーターとして寄り添っています。日々模索しているのは、彼らの可能性を最大限に引き出し、その子らしさを咲かせられる教育。子どもたちが主体的に学び、主役となれる多様な学びの場が、選択肢のひとつとして当たり前にある地域を目指して、これからも活動を続けていきます。

日々の活動をお届け
ともゆきがゆく!

2024/5/25
つくし学園 竣工式

老朽化が進んでいた施設から念願の新築移転。子どもにやさしい校舎に大満足!

2024/5/29
新川高校カレー試食

奥田政行シェフ監修! 新川大根を使った薬膳カレーはパッケージもこだわりあり。

2024/7/26
庄東第一発電所視察

県下最大の水力発電所の大規模改修。直径5mの鉄管の入れ替え工事は大迫力!

2024/7/30
長浜高校水族館部視察

全国で唯一、部活動で運営。水族館の今後を考えるうえで刺激をもらいました。

2024/8/7
経田七夕まつり

笹を切り出し飾りつけ、願いを込めて笹寄せを。フィナーレは経田名物の花火!

2024/9/4
水産研究所 & 立山丸視察

地震後の調査やノドグロ、キジハタの養殖実験など唯一無二の成果を上げてます。

2024/11/3
富山マラソン 2024

人生初のマラソンは 26.8km で泣く泣く時間切れ。次回に備えて練習に励みます。

2024/11/16
富山湾の白エビ漁

不漁が伝えられる白エビの資源回復を祈るばかり。現場の漁師さんかっこいい!

2025/3/15
天神シニアの集い

お笑い芸人としても活動する嶋川武秀県議と、富山県の未来を語るトークイベント。

魚津・新川の
魅力や情報を発信!

Instagram : terra_0331

OFFICIAL WEBSITE <https://teraguchi.jp/>



寺口 智之 てらぐちともゆき
1978年 富山県魚津市生まれ 富山県立魚津高等学校 明治学院大学経済学部 卒業
大学卒業後、写真スタジオ勤務を経てカメラマンとして活動。2011年の東日本大震災に魚津に
Uターン。魚津商工会議所に8年間勤務し、「魚津まつり」などのイベントや外郭団体事務を
担当する。2020年に退所し、魚津市議会議員として活動。2023年、富山県議会議員に初当選。

SNSも
日々更新中!

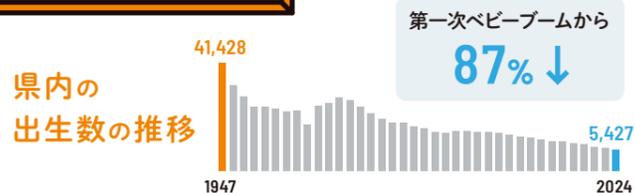
teraguchitomoyuki2020 terra_0331

地域の課題をざっくり解説!

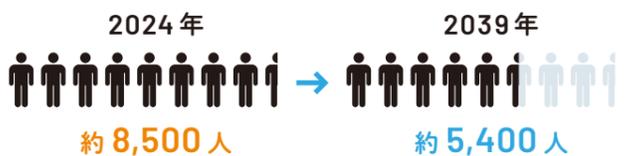
おしえて! 寺口ギン

第1回 県立高校再編

まずは現状の整理から



高校1年生の人数



出典:人口動態統計(厚生労働省)、令和6年度学校基本調査(文部科学省)



社会の変化や学びへのニーズの多様化、何より生徒数の減少から、県立高校を再編する必要があるんだ。

そこで登場したのが…

新しい学校をつくる!
新時代とやま
ハイスクール構想



新時代とやま
ハイスクール構想(仮称)



基本目標の「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」を実現するため、学びの内容や学校規模、バランスの取れた配置を考慮して、すべての県立高校を再構築して新たな高校を開設する構想が示されたよ。

で、結局どうなるの?

34校 → 22校程度へ再編

※構想の素案では [令和10年度頃] 4~6校程度 → [令和15年度頃] 12~14校程度 → [令和20年度頃] 22校程度を配置予定。

さまざまな人の意見を聞きながら計画をまとめていく現在の案はいいと思う。学びたい、学んでよかったと思える県立高校を目指して、学習内容はもちろん、多様なニーズに応えた魅力づくりについても議論を進めていこう!



校内教育支援センターの整備

Q 「校内教育支援センター」は不登校児童生徒の居場所として重要だと考えるが、その必要性について、また拡充に向けてどのように考えているのか。

A 新田八朗 知事: 現在、本県では、教員以外の支援員が児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援に取り組んでおり、その効果は大きいと認識している。本県においては、同センターの設置率が全国平均を下回っており、引き続き設置の促進が必要であると認識している。設置促進に加え、支援員の確保や補助対象の拡大についても検討を進め、国に対して必要な要望を行いながら、児童生徒が安心して学びに向かえる環境づくりを推進していきたい。

支援センター拡充への予算確保を求め、整備の促進を期待します。

水産研究・教育機構の移転誘致

Q 国立研究開発法人水産研究・教育機構の移転誘致にタスクフォースを設置して取り組んでいるとのことだが、誘致実現に向けた現状について問う。

A 佐藤一絵 副知事: 新田知事から滝波農林水産副大臣に対して、移転に向けた要望を行い、協力には同意いただいた一方で、同機構は令和2年7月に組織再編を行っており、早期移転には課題もあるとの見解が示された。今後は関係機関との意見交換を行いながら、より精緻に検討してまいりたい。

富山にあることの有用性をアピールし、ぜひとも誘致の実現を!

警察署の再編・整備

Q 警察署の再編後も域内の人口減少が進んでいくなかで、安全と安心を維持するための職員体制の配置や機能維持について、どのように計画しているのか。

A 高木正人 警察本部長: 現在進めている再編整備においては、小規模警察署を統合し、総合的な治安維持の強化を目指している。さらに、交番や駐在所の維持・活用を通じて、運転免許証の更新など住民ニーズの高い行政手続きの窓口業務は継続していく。

質問と答弁がかみ合わず……。具体的な数字など、わかりやすく丁寧な説明を!

鉄道ネットワークのあり方

Q 滑川-魚津間は、富山地方鉄道とあいの風とやま鉄道との並行区間で、そのあり方について県の積極的な参加を期待するが、所見を問う。

A 田中達也 交通政策局長: 鉄道事業者との調整を含め、公共交通の持続的な運営に向けた方向性を検討していく必要があると考えている。並行区間における鉄道ネットワークの最適なあり方についても、関係機関と連携しながら、利用者目線に立った利便性向上や地域活性化に資する形で、調整を進めていく。

市町村の利害関係の調整も必要。県のリーダーシップを期待します!

県立高校の再編

Q 県立高校の再編においては、各校各学科の魅力化を図り、それぞれの学習内容を活かした再編を進めるべきと考えるが、所見を問う。

A 廣島伸一 教育長: 「新時代とやまハイスクール構想」に基づき、普通科と専門学科を組み合わせた多様な教育プログラムを構築し、バランスを考慮した学科配置を進める方向性を示している。県立高校の魅力向上に向け、学科ごとの特色を生かした情報発信を積極的に行い、生徒や保護者に対して学校選択の参考となる情報提供を充実させていく。

多様な教育プログラムの構築に期待。さまざまな意見を吸い上げた新たな学校の創設を期待します。

外国人材の活用

Q 労働力不足が深刻化する中、外国人材の活用が重要と考えるが、人材の受け入れや定着をより一層進めるため、今後どのように取り組んでいくのか。

A 山室芳剛 商工労働部長: 外国人材の活用は県内企業にとって重要な選択肢となっており、外国人ワンストップ相談センターを設置し、多言語で行政や生活に関する情報を提供するなど、安心して暮らせる環境整備にも取り組んでいる。今後も外国人材に選ばれる富山県を目指し、人材の受け入れや県内定着の促進に向け、積極的に取り組んでまいりたい。

情報提供や受け入れ支援など、県内企業が雇用したいと思えるような取り組みも、あわせて進めることが大切だと思います。

令和6年9月・令和7年2月定例会 議会質問ダイジェスト

これまで注力してきた「教育」や「水産業」のほか幅広いジャンルにわたって、昨年9月に12問、今年2月に14問の質問を行いました。そのうち7つのテーマについて、振り返りコメントとともにダイジェストでご紹介。進捗がみられた「新規採用教員の負担軽減」をはじめ地域のさまざまな課題について、継続して議論を進めていきます!



新規採用教員の負担軽減

令和6年9月 定例会

Q 新任教員の休職への対応として、心にゆとりをもって業務に専念できる体制づくりが必要だと考えるが、これまでの取り組みと現状の課題認識について問う。

A 廣島伸一 教育長: 新規採用等で特に業務に不慣れな新任教員に対し、指導教員を配置し、心と時間のゆとりを持って業務に取り組めるよう配慮をしている。このほか、全教員を対象に毎年ストレスチェックを実施し、初任者研修においては専門家など気軽に相談できる制度の周知を図るなど、心のケアに努めてまいりたい。



令和7年2月 定例会

Q 小学校の学級担任となった新採教員の負担軽減のため、専門性の高いサポート教員の配置が重要だと考えているが、その内容と配置見込みについて問う。

A 廣島伸一 教育長: 令和7年度から、専門性を有するサポート教員を非常勤講師として県内全体で約50人程度配置することとしており、授業の一部を担当することで、教材研究や授業準備、学級事務などの業務に十分な時間を確保できるよう支援していく。教育委員会としては、学校現場や市町村教育委員会と連携し、安心して指導力を向上できる環境づくりに取り組んでまいりたい。

2度にわたり議会で質問。サポート教員配置の決定は素晴らしい!